

第60回 福島県公立学校退職校長会 西白河大会開催



崩落した小峰城の石垣

さて今年度の会場白河市は、江戸時代、「寛政の改革」を行った老中松平定信のお膝元です。日本最古の公園「南湖公園」、藩主定信が拠点とした「小峰城」等、多くの史跡が現存します。

令和八年六月九日（火）、白河市「シン鹿島」において「第六十回福島県公立学校退職校長会西白河大会」が開催されました。県内各支部より百七十九名の会員が参加しました。双葉支部からは、小野田敏之支部長、渡邊由起子、松本浩一副支部長、鈴木孝彦庶務兼副支部長の四名が参加いたしました。魅力ある会を目指し、支部活動を充実させ、会員同士の触れ合いや支え合いを一層深める目的により、この県大会は毎年実施されています。昨年度は会津、今年度は中通り、来年度は浜通りのいわき市です。

双風

臨時版

しかし、小峰城は、東日本大震災で震度六強の揺れに絶えきれず、各箇所石垣が崩落しました。こうした大きな被災が起きたことから「講演」では「**史跡小峰城跡の地震被害から復興への姿**」という演題で、白河市建設部文化財課文化財専門研究員、鈴木功氏から大変興味深いお話を拝聴することができました。小峰城の石垣は、昭和の改修工事でセメントを入れ板構造のようにしたそうです。ところが震災では、板状の石垣が倒れるように崩落したということでした。新しい改修方法が、かえって強度を落とす結果となったそうです。そこで今回の修復工事は、江戸時代の伝統的手法にならない石垣を積み上げ（空積み）、八年をかけて整備したということでした。

編集発行
福島県公立学校
退職校長会双葉支部
発行責任者
小野田 敏之
◆◆◆◆◆
事務局
〒963-8025
福島県郡山市
桑野5-11-18
鈴木孝彦
090-7063-3587

この修復方法は、文化財石垣修復のモデルケースとなり、熊本地震で被災した熊本城の修復等全国の石垣災害復旧に波及しているそうです。

○被害を大きくした原因を究明する

○同じ過ちをしない

○防災の意識をつなぐ

まさに「災害に学ぶ」とはこのことだと思いを深くしました。

午後の部に入りました。

安達、北会津、相馬の三支部の代表による「体験発表」が行われました。退職後の人生をいかに豊かに生きるか、地域に貢献する生き方をどうするか、三名の個性と探究心あふれる、地域と共にありとうとする生き様に感銘いたしました。



修復工事を終えた石垣と城の勇姿

「体験発表」の後、大会宣言・閉会式を終え、本大会の全日程が終了しました。私たちは、小峰城の勇姿を眺望し、帰路につきました。



「双葉支部、会場前にて」

「評議員会」 での話題：

四月二十四日(金)、令和八年度福島県公立学校退職校長会評議員会が行われました。小野田支部長、鈴木庶務が評議員として参加しました。

そこで話し合われた内容の一つに、「**双葉支部による県大会開催の可能性**」についてが上がりました。

震災以降、双葉支部での県大会開催は、会員が地元から離れていること、双葉郡の復興が途上であること等の理由から、双葉支部による開催は難しい旨を伝えてきました。県では、双葉支部が開催できる状況になるまで待つという姿勢でした。震災から十五年が経ちますが、三年に一回は浜通りに県大会の当番が回ってきます。双葉支部が開催枠から抜けている現状では、相馬支部かわき支部のどちらかで当番を受け持たなければなりません。今回の

評議員会では、特に相馬支部、いわき支部から今後の方向性を明確にしていきたいという意見がありました。さらに、実行委員等不足するのであれば、両支部から応援するとの声も上がりました。また、従来の県大会規模を維持しなくても実現可能な規模に縮小することも考えられる等の意見もありました。

□大会を企画・運営できる

人材の確保

□大会会場の確保

□予算の確保

□当日の昼食を準備できる

業者の確保

□今後新会員の確保が困難になる問題・・・



<参考1>西白河大会会場



<参考2>西白河大会会場

「双葉の灯は消さない」
ために今できること...



令和九年度は、いわき市スパリゾートハワイアンズでの開催です。今のところ双葉支部で開催する、しないは何も決まったわけではありませんが、開催するとなればその三年後、令和十二年度が候補として上がってきます。会員の皆様にもこのような状況にあることをご理解いただき、今後役員、理事等での検討を重ねて参る所存です。

事務局から

会員の皆様には、震災以降支部活動の十分な取り組みができない状況にありながらも会の運営にご理解・ご協力いただき、心より感謝申しあげます。

★双葉支部は会員の居住地が離れているために、情報の共有や文書等の伝達・発送についてはほとんど郵送になり、郵送料の負担大となるのが課題でもあります。この負担軽減のため電子メールの活用や会議、同好会等で集まった折に配布するなど小さな工夫に取り組んでいるところです。

①郵便 ②メール

③手渡し

今後ともご理解ご協力よろしく申し上げます。

★令和八年度の役員を別添えの総会要項でご確認ください。副支部長の遠藤弘通先生に代わり、庶務鈴木孝彦が兼任となりました。

梅雨の頃



以前、ゴルフ仲間で先輩でもある吉田弘見先生に「この白い花の咲く樹木は何という名前ですか。」と尋ねたことがあります。「夏椿、別名沙羅、花が咲いても一日で落ちるんだ。」と教えてくれました。梅雨の頃、拙宅の庭にも小振りながら夏椿の白い花が咲き、地面には落下した白と白とが雨にぬれています。

踏むまじき 沙羅の落花
のひとつふたつ

日野草城



雷雨中止となり、空を仰ぐ
双球会(ゴルフ)メンバー...

お祝い申しあげます

○賀寿祝い

三月十日九十五歳

菅野 茂先生。

現在、埼玉県にお住まいです。電話でお元気そうなお声をお聞きすることができました。

○賀寿祝い

六月二十一日九十五歳

石井 宏先生。

現在、栃木県にお住まいです。

お二人には、県退職校長会からの賀寿状と記念品代を送りました。これからもご長寿を積み重ねられますようお願いいたします。誠におめでたうございます。



お悔やみ申しあげます

五月二十五日、ご逝去

星 秀美 先生

七十歳

数年にわたりご病気と立ち向かわれましたが、無念にもご逝去なされました。心よりお悔やみ申しあげます。

故人を偲んで

鈴木 孝彦

今回、頁枠を戴き、執筆の機会を得ました。星秀美先生

の訃報には、私自身大変驚かされました。秀美先生とは小、中学校の違いはあれど教頭時代・校長時代をほぼ同時期に過ごした同僚でもあります。今、私は双葉支部の庶務を務めておりますが、かつて秀美先生も

同じ役職で頑張っておられました。特に、双葉支部会員の絆を深める文集「双葉の灯は消さないくあれから十年の今とこれから」の編集・製作に懸命に取り組んでおられました。

私は、改めて文集の頁をめくり、お元気だった頃の秀美先生の文章を目にいたしました。そこには、震災から十年後、秀美先生ご自身がどう生きたかについて述べた文章がありました。

私の一存ではあります。この文章の一部を掲載させて戴き、七十歳という若さで亡くなられた星秀美先生の在りし日のお姿を会員の皆様と共に偲ぶことができます。

「震災の記憶と十年後の今」

星 秀美

後半部より

さて、十年後の今の自分はどうかという、特に熱を入れて取り組んでいることが二つある。

一つは、二十年あまり握る機会がなかったラケットを引

つ張り出し、『ソフトテニス』を始めたことである。いわき市に新居を構えたので、地域の人たちの交流を求め、まずは、近くにあるクラブチームに入会を申し入れた。幸いにも大歓迎で迎えてもらい、参加回数を重ねることで皆さんと打ち解け合うことができた。言葉はなくても通じ合えることが、スポーツのよさである。一日四時間程度の練習に、週二〜三日参加した。クラブ員と世間話をし、練習で汗を流せば「避難している」という窮屈した気分から解放された。また、いろいろな方とペアを組んで大会にも出るようになった。大会に参加すること

で交友の輪が広がり、昔のテニス仲間と再会する驚きもあった。大会での勝敗に一喜一憂するものの、充実感を味わえる時間となっている。

もう一つは、避難直後から始めた『登山』である。避難したばかりの頃は、所属感のある「ミニミニ」もなく、自分とは異邦人の妖気をまとっているようで、気分が優れない時期が長く続いた。そんな中、二十年来のつきあいとなっている「ベルの会(息子の少年野球時に、町民としての誇りや所属

代の保護者六夫婦、十二名からなる)のメンバーと再会したことを機に、登山が始まった。

まずは、磐梯山に登った。そして尾瀬、燧ヶ岳、早池峰山、至仏山、鳥海山、八ヶ岳など、百名山への挑戦と体力作りの里山登山に取り組んでいる。高山に咲く可憐な花たちに癒やされ、登頂したときの達成感と下界では拝めない絶景に出会えたときの感動がたまらない。その後の反省会もまた楽しい。このベルの会は、「強制せず、無理せず、いかに楽しむか」がモットーで、登山の他にも野菜づくりや蕎麦づくり、旅行、ボランティアなど、様々な活動に汗を流して楽しんでいる。気の置けない仲間との交流は、次への鋭気を養う時間となっている。

最近、浪江町の仕事に関わるようになり、故郷の様子を毎日見るようになった。古い家屋が解体されて更地が増える一方、新しい建造物も目に付く。確かに外観的には復興が進み、新しい町になっていくように思うが、心の復興はどうだろうか？震災前のように、町民としての誇りや所属



令和元年、福島大会参加
左端が在りし日の星秀美先生

感をもって暮らしているようには感じられない。住民のコミュニティはまだまだ脆く、発展途上である。楽しみや苦勞を一緒に分かち合える仲間がいなければ、そこに住む意味を見い出せないのではないか。お互いに支え合つて、生きがいを感じ合うことができるコミュニティを取り戻すことが望まれる。そんなコミュニティができれば、いつでも故郷に戻る心の準備はできている。

なんとお元気ではつらつとした生き方でしょうか。心の復興をご自分で、星先生の故郷で実感したかったことでしょう。道半ばで世を去ることは本当に無念であつたろうと思います。

故人の御冥福を心よりお祈り申しあげます。



定期総会参加者のみなさん

令和八年度定期総会

四月十日(金)、楢葉町のJヴィレッジにおいて令和八年度退職校長会双葉支部定期総会・懇親会が開催されました。参加人数は、十五名と昨年度に比べ若干少なめでした。令和七年度の事業報告、会計決算報告、監査報告を行った後、協議に移り、異動確認、事業計画、予算について提案、承認を得ました。また本年度県大会についても協議し、役員の参加について承認さ

れました。令和八年度役員については、令和七年より八年の二年間は、同じ役員が務めることになっていますが、遠藤弘通副支部長が、ご家庭の事情により役員を辞退されたため、庶務の鈴木孝彦が副支部長を兼任することになりました。別添えの総会要項でご確認ください。

総会後、別室にて懇親会に移りました。今年度は、新入会員がおらず懇親会のみとなりました。今



松本浩一、渡邊由起子副支部長の司会で議事進行



お忙しい中ありがとうございます。一杯どうぞ！



さあ、どうぞどうぞ。がんがんやってください！

後このようなケースが続きます。少数精鋭ですが、懇親会からは三町の教育長さんも応援に駆けつけ下さり、新入会員ゼロの寂しさを吹き飛ばすかのように賑やかな懇親の場となりました。欠席された会員の方からもたくさんメッセージを頂戴しました。ありがとうございます。

四月は、会員の皆様も多忙な時期かと存じます。年に一度の懇親の場です。来年度はぜひご都合をつけて一緒に語り合ひましょう。

お酒も入り、弁舌も絶好調！



あとがき

サッカーワールドカップ決勝トーナメント、日本対ブラジル。日本がずっと背中を追いかけてきたブラジル、いつかは追いつき、追い越したい。サッカー選手なら誰もが持つ夢です。日本は敗れましたが、もう夢やあこがれではありません。日本選手の手は、明日への希望です。

世界中の人々よ、戦争するならサッカーやれ！
そう声に出したい、明け方四時の私でした。

皆様、老体にむち打って明るく生きましよう。
ご自愛ください。

